

緊急課題解決2 命と地域を支える道づくりプロジェクト(主担当部局:県土整備部)

プロジェクトの目標

社会基盤である幹線道路等の整備を進めることにより、大規模地震や異常気象による集中豪雨等の自然災害の脅威に対して地域の安全・安心を支えるとともに、北・中部地域の産業、南部地域の観光など地域の今ある力を生かした新しい三重づくりが進んでいます。

プロジェクトの数値目標

目標項目	23年度	24年度	25年度		26年度	27年度
	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
命と地域を支える道の供用延長	/	86.8km	129.7km		141.7km	147.8km
	74.6km	86.8km			/	/

目標項目の説明と平成26年度目標値の考え方

目標項目の説明	県内の高規格幹線道路や主要な直轄国道、地域高規格道路、アクセス道路の供用延長
26年度目標値の考え方	北勢バイパス、中勢バイパス、国道260号錦峠等の幹線道路を新規供用することをめざし、目標値を設定しました。

実践取組の目標

実践取組	実践取組の目標	23年度	24年度	25年度		26年度	27年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
1 「命を支える道づくりに向けた課題」を解決するために	命を支える道の供用延長	/	55.5km	86.8km		88.6km	88.6km
		43.3km	55.5km			/	/
2 「地域を支える道づくりに向けた課題」を解決するために	地域を支える道の供用延長	/	31.3km	42.9km		53.1km	59.2km
		31.3km	31.3km			/	/

進捗状況(現状と課題)

【実践取組1 命を支える道づくりに向けた課題解決】

【実践取組2 地域を支える道づくりに向けた課題解決】 共通

- ・ 紀宝バイパスについては、昭和47年度から事業を進めてきましたが、全長4.5kmのうち未供用区間であった約1.6kmが平成25年6月16日に供用したことにより、全線供用しました。供用後の交通状況を見ると、交通量の約60%が国道42号から紀宝バイパスに転換し、慢性化していた国道42号の渋滞が解消するなど交通の円滑化が図られるとともに、人身事故の減少や通学時間帯の交通量の減少など安全性の向上が図られました。

- ・ 第二伊勢道路約 7.6km については、式年遷宮までの供用を目標に整備を進めてきましたが、9月14日に供用しました。供用後間もなく上陸した台風18号の影響により、伊勢と志摩を結ぶ県道伊勢磯部線が通行止めとなり、本道路は、早速、代替路機能を発揮しました。今後も、交通混雑の緩和や交通事故の減少が期待できます。
- ・ 熊野尾鷲道路の全長約 18.6km のうち、未供用区間であった約 13.6km（三木里～熊野大泊）が、また同時にアクセス道路の県道賀田港中山線、県道新鹿佐渡線が9月29日に供用開始しました。供用により地域相互間の交流・連携が促進されるとともに大規模災害時などの代替ルートの確保が図られます。
- ・ 地域と一体となった国などへの粘り強い働きかけにより、熊野大泊から新宮間については、地域の皆さんの声や学識経験者等の意見を踏まえ、平成25年4月に概ねのルートが決定されました。このうち、紀宝から新宮間については、新宮紀宝道路（熊野川河口大橋（仮称）含む）として、5月に新規事業化され、詳細なルートや構造を決定するための地質調査や測量などの現地調査に着手しました。さらに、未事業化区間（熊野大泊～紀宝）においても、今年度、道路調査費が確保され、地質調査や測量などの現地調査に入るなど、紀伊半島のミッシングリンクの解消に向け前進しました。今後とも、事業化区間の早期供用および未事業化区間の早期事業化に向けた取組が必要です。
- ・ 自然災害の脅威は今後一層深刻化することが予測され、地域の安全・安心を支える幹線道路等の整備が急がれています。また、交通渋滞が頻発している現状に対し、集積する産業や魅力ある観光など地域の今ある力を生かした三重づくりを支える幹線道路等の整備が求められています。

平成 26 年度 の 取 組 方 向

【実践取組 1 命を支える道づくりに向けた課題解決】

【実践取組 2 地域を支える道づくりに向けた課題解決】 共通

- ・ 交通需要への対応と交通渋滞の解消および、災害時の緊急輸送や代替ルートの確保に向け、新名神高速道路、東海環状自動車道、北勢バイパス、中勢バイパスや桑名東部拡幅（伊勢大橋）等の事業化区間の整備促進を図るとともに、これらと一体となった道路ネットワークの形成に向けた県管理道路の整備、北勢バイパスの未事業化区間の早期事業化に向けた取組を推進します。特に、平成26年度の供用開始予定となっている、北勢バイパス（四日市市垂坂町の市道垂坂1号線～四日市市山之一色町の市道日永八郷線間）、中勢バイパス（津市野田の県道家所阿漕停車場線～津市高茶屋小森町の国道165号間）、国道260号錦峠等の整備促進を図るとともに、関連する県管理道路等の整備を推進します。
- ・ 紀伊半島のミッシングリンク解消に向け、「新たな命の道」として熊野尾鷲道路（Ⅱ期）および熊野川河口大橋（仮称）を含む新宮紀宝道路の整備促進を図るとともに、未事業化区間（熊野大泊～紀宝）の早期事業化などを図ります。

主な事業

【実践取組1 「命を支える道づくりに向けた課題」を解決するために】

県土整備部

●命を支える道づくり事業

予算額：(25) 8,990,000千円 → (26) 2,073,334千円

事業概要：県民の命と暮らしを守るため、緊急時の救助・救援、災害時の復旧・復興を担う「新たな命の道」としての幹線道路の整備を進めるとともに、ミッシングリンクとなっている未事業化区間の早期事業化に努めます。

【実践取組2 「地域を支える道づくりに向けた課題」を解決するために】

県土整備部

●地域を支える道づくり事業

予算額：(25) 7,148,280千円 → (26) 12,933,527千円

事業概要：集積する産業や魅力ある観光など、地域の今ある力を生かした三重づくりを支える基盤として、産業活動や観光交流に伴い増加する交通需要に対応し、交通渋滞の解消に資する幹線道路およびこれらにアクセスする道路の整備を進めます。